

名誉会長
鈴木 博
会長
警崎 弘貞
副会長

佐藤 弘明 高瀬 文広 藤枝 善之
理事

秋好 礼子 岡崎 弘信 角山 照彦 窪田 守弘
W.クリンガー 瀧口 優 塚越 博史 塚田三千代
中島 千春 新田 晴彦 日野 克美 真下 富雄

The Association for Teaching English Through Movies

ATEM Newsletter

映画英語教育学会

Jul. 2007 No.15

発行日 : 2007年7月31日
発行 : 映画英語教育学会事務局
住所 : 〒169-0075
東京都新宿区高田馬場
4-3-12 アルク高田馬場4F
TEL : 03-3365-0182
FAX : 03-3360-6364
E-mail : office@atem.org
郵便振替 : 00820-3-1477

CONTENTS

page 1	第13回大会を振り返って	page 5	会計報告
page 2	大会発表者募集・第13回大会の様子	page 6	学会誌原稿募集
page 3	九州支部より・関西支部より	page 7	役員及び委員紹介・原稿募集
page 4	東海支部より・お知らせ	page 8	入会案内

第13回大会を振り返って

大会運営委員長 兼本 円 (琉球大学)

5月19日(土)琉球大学の千原キャンパスにおいて第13回映画英語教育学会全国大会が開催されました。過去に倣えば、7月頃ということになるのですが、何しろ台風銀座沖縄なので、大事を取って連休明けのこの日ということになりました。それでも「ATEMのメンバーはなんとか来られても、STEMはどうか」の大きな心配はありました。しかし、5月17日には庭の檜が咲いて少々気が楽になりました。「台風が、」という思いは当日まで心の片隅に残りましたが、前日金曜日でも当日の土曜日でも小雨が降っただけで、無事学会を終了することができました。そして、今こうして一息つきながらパソコンに向かい拙い文章を綴っています。

18日(金)にはSTEMとATEMの会員で首里のレストランで夕食を共にしました。本大会のテーマが「映画で文化の壁を破る」でありましたが、やはりその前に腹ごしらえが必要です。STEMのLee会長を始め約20人とATEMも同人数程度で和やかに会食することができました。予約の人数を少々超えた参加数になったため、詰めて座ってもらうことになったことをこの場を借りてお詫びいたします(「お互いが近くなって、話が弾みましたよ」と優しく労いのことを下さる方もいたので、ホッといたしました)。

19日(土)は本番です。モノレールがあるといっても、まだまだ沖縄は交通事情が悪いので、「文化の壁を論ずる前に、発表者は時間通りに来てくれるのだろうか」とハラハラ、ドキドキしていました。しかし、これも杞憂に終わり、STEMはチャーターバスでATEMも何名か便乗、他の方々はグループ、または個々人で嬉々として「登場」してくれました。お陰

で、ハラハラの方は消えましたが、ドキドキはまだまだ居座り、「発表会場でなにか故障みたいなものがあるかも、」と呟き続けました。確かに多少それはありました。しかし、それも大事に至らず、次回沖縄でもう一度大会を開催する際の改善事項にできることだと思っています(乞うご期待)。

研究発表の一つ一つを挙げるのは紙面が許さないことですが、大会のテーマに関連づけてまとめることはできると思います。いずれも複雑な重層文化の壁にチャレンジするものであったということ。単に二つの異文化間の壁のみならず、学習者と教育者の文化差を前提に異文化理解に取り組む真摯な姿勢があったこと。殆どの発表が英語を専攻する学生と非専攻学生の違いをハッキリ認識したものであったこと。これらの発表の全ては「英語」、「学習」、「異文化理解」、「映画」を浅薄な捉えられ方ではなく、動的な深い概念を持っていたということ。

最終的には学会のテーマの一部、「異文化の壁」はどうなったか。これはあくまでも私個人の感想ですが、「破る」域までは至らなかったのかも知れませんが、かなりの収穫はあったと思えました。一つ一つの研究発表を振り返ってみると、大会前は文化の壁が風通しの無いコンクリート製に思えましたが、今では、向こう側を垣間見ることのできる柔軟な竹格子造りであるように思えました。

今回の学会もATEM、STEM、スクリーンプレイ事業部、学会参加者の皆様のお陰を持ちまして無事終了することができました。深く感謝いたします、それと同時に次回の創価大学で行われる14回大会にも変わらぬご協力を戴けるようお願いいたします。

大会発表者募集

◆ ATEM第14回全国大会発表者募集 ◆

映画英語教育学会では2008年6月21日(土)、創価大学(東京都八王子市)にて、第14回大会を開きます。つきましては研究発表を募集いたしますので、希望する方は次の書類を事務局までメールしてください。締め切りは2008年1月25日(金)です。また採用結果は、2月29日(金)までにメールにて連絡いたします。

発表申し込み (テキストファイル)

- 【必須事項】 ①発表題目 ②発表者名(全員、ふりがな、ローマ字も必要) ③所属(全員、英語名も必要)
④連絡先住所 ⑤メールアドレス ⑥電話番号 ⑦発表時の使用言語(発表時間は30分)
⑧使用機器(ただし開催校で準備できない場合もあります)
⑨概要(日本語発表の場合は、日本語で400字、英語発表の場合は、英語で200words程度)

【送付先】 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-3-12 アルク高田馬場4F
映画英語教育学会事務局
TEL: 03-3365-0182 / FAX: 03-3360-6364

第13回大会の様子



狩俣繁久教授による基調講演



ワークショップの様子



研究発表の様子

九州支部より

皆さんこんにちは。九州支部の中島千春です。今年1月、高瀬文広先生より支部長のバトンを受け継ぎました。不慣れではありますが、運営委員の皆さんと共に、九州支部の「明るい・元気・仲が良い」の伝統を大切にしていきたいと思います。同時に、会員の皆さんとアイデアを出し合いながら、新しい企画や活動にも積極的に取り組み、更に魅力ある支部を目指したいと思います。どうぞよろしくお願います。

まず、昨年度の活動報告としては、10月9日に支部大会、翌10日に映画英語&コミュニケーションフェア2006を西南学院大学において開催しました。支部大会では8名の発表があり、貴重な情報交換の場となりました。また、フェアでは、講演の他に映画上映会や「お仕事発見コーナー」を企画し、教育関係者だけでなく、学生や一般市民など多数の参加者がありました。支部大会では関西支部長の藤枝先生に研究発表をしていただき、応援に倉田先生、横山先生も駆けつけて下さいました。この場を借りまして、関西支部に厚くお礼申し上げます。

本年度の支部大会は、9月1日(土)、福岡大学において開催されます。研究発表、シンポジウム、そして恒例の「映画オタクコンテスト」を予定しています。

なお、九州支部の詳しい活動内容は、シーズンごとにホームページで詳しく報告されます。年に2回発行されるニューズレターには、支部の活動報告の他に、会員によるリレー式のミニエッセイもあり、読み応えのある内容になっています。こちらの内容もホームページでご覧になることができますので、是非一度支部のHPにもお立ち寄りください。九州支部一同、心よりお待ちしております。

九州支部ホームページ：

<http://www.atem.org/kyushu/index.html>

九州支部長 中島 千春(福岡女学院大学)

関西支部より

関西支部では、創立以来のモットーである「研究活動の充実」の他に、「他支部・他学会との交流の活発化」、「第2の拠点、大阪での活動の充実」、「映画データベースの蓄積」を本年度の努力目標に掲げて活動を展開しています。

4月21日の第11回STEM大会には、関西支部より5名の会員が参加しました。STEM会員の方々と交流を深めると共に、松井先生がアメリカのテレビ番組を使って、「How Do People Use “Secondary Predicate” in Conversation?」という題の発表をし、好評を得ました。

5月19日の第13回ATEM大会では、関西支部会員の井村、倉田、斎藤、西川、朴、横山の6名の先生が発表をし、大会の成功に貢献しました。発表題目は、「Material Production Made Easy」「基本動詞表現と映画を使った英作文授業の一試案」「映画化された文学作品のぜいたくな使い方」「映画で学ぶコミュニケーション英作文」「A Study of EFL Learners' Pragmatic Awareness Using a Movie Scene」「映画のセリフに見る隣接応答ペアの特徴分析について」と、多岐に渡るものでした。

6月9日には、役員会が開かれ、関西支部のデータベース委員会(委員長：井村誠)を立ち上げ、映画英語情報の蓄積を図ることが決定されました。また、今年度の関西支部大会を以下のように開催することになりました。

日時：10月20日(土) 10:30 ~ 18:00

場所：摂南大学(大阪)

シンポジウム・テーマ：『プラダを着た悪魔』
— 英語学、女性学、ファッションの観点から
分析する

この関西支部大会では、支部交流のために東海支部の窪田先生にもご発表を頂きます。関西以外にお住まいの方も、一度遊びに来て下さい。お待ちしております。

関西支部長 藤枝 善之(京都外国語大学・短期大学)

東海支部より

今年度の東海支部のこれまでの活動状況を、以下に簡単にご報告いたします。

◆「第10回東海映画英語フェスティバル」について

東海支部では、「第10回東海映画英語フェスティバル」が、6月16日に愛知淑徳大学(星ヶ丘キャンパス)で実施されました。今年は第1回目から数えて記念すべき10回目に当たるために、当初はより多くの人々を対象にした試写会を計画してきましたが、エージェントの都合により、やむなく中止せざるを得ない状況になりました。

しかし、運営委員会では何度も話し合っ、例年通りの規模で映画英語フェスティバルを行うことに決め、なんとか実施にこぎつけることができました。プログラムの主な内容として、①映画英語鑑賞では、ジュリア・ロバーツ主演の『モナリザ・スマイル』(2003)、②講演では、ZIP-FMのナビゲーターの鉄平さんによる映画や英語に関する講演会、③映画音楽の調べでは、愛知芸術大学の渡辺知絵さんの美しいバイオリンソロ演奏などを企画し、約90名の参加者が心ゆくまで楽しむことができましたようです。来年度以降も引き続き、さらに充実した内容で、フェスティバルが実施できるよう計画する予定です。

◆「東海支部映画英語セミナー発表大会」について

東海支部では、来る11月17日(土)に、「東海支部映画英語セミナー発表大会」を愛知淑徳大学(星ヶ丘キャンパス)で実施する予定です。この発表大会は、こぢんまりとした規模ですので、皆さんが奮って参加していただけるようお待ちしております。今年度は関西支部・副支部長の横山仁視先生のご参加をいただくことになっています。関西支部長、藤枝先生の支部交流を深めようというお考えの下、一昨年より東海支部と関西支部で交流が始まっていますが、これも継続されていくことが学会の発展につながるものと思われま。

◆「東海支部の新体制」について

6月16日の「第10回映画英語フェスティバル」

の後、東海支部の臨時総会が開かれ、新しく亀山太一先生(岐阜工業高等専門学校)が支部長に選出されました。それと、同時に副支部長として宝壺貴之(愛知産業大学)、渡辺康行(岐阜県立多治見高等学校)、松葉明(名古屋市立藤森中学校)の3先生が選出されました。今後は、新体制の先生方が中心になって、東海支部をさらに発展させていく所存ですので、皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

東海支部長 窪田 守弘(愛知淑徳大学)

お知らせ

◆学会事務局移転について

2007年5月19日の第13回総会にて、学会事務局の移転が承認されました。これまで、株式会社フォーイン スクリーンプレイ事業部内に事務局を設置しておりましたが、下記のとおり5月19日付で株式会社広真アド内に移転しましたので、お知らせいたします。お問い合わせ先、送付先が変わりますのでお間違えのないようご注意ください。よろしくお願いいたします。

【新所在地】

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-3-12
アルク高田馬場4F (株)広真アド内
TEL: 03-3365-0182 / FAX: 03-3360-6364
E-mail: office@atem.org

◆HPリニューアルについて(データベース作成委員会より)【<http://www.atem.org>】

ホームページが新しくなりました。今回の更新より英語バージョンが加わりました。また、新作映画の案内も追加し定期的に更新しております。現在は、ダイアナ元皇太子妃の事故当時を取り巻くロイヤルファミリーを描いた『クイーン』、カリフォルニア・ロングビーチでの高校の荒廃した環境と一人の新米教師の戦いを描いた『フリーダム・ライダーズ』をアップしております。どうぞ授業等の情報としてお役立て下さい。

映画英語教育学会 2006年 決算報告書

2006年12月31日

(2006. 1. 1～2006. 12. 31)

収入の部				支出の部		
前年度繰越			654,792	大会開催費	大会開催総費用	300,713
会員年会費	04年度分 @ 3,000*	10	30,000	紀要発行費	紀要作成・印刷費・送料	242,487
	05年度分 @ 3,000*	61	183,000	ニュースレター発行費	ニュースレター作成・印刷費・送料	95,530
	06年度分 @ 3,000*	214	641,000	ホームページ維持費	プロバイダー基本料他	63,000
	07年度分 @ 3,000*	3	9,000	研究活動費	研究活動助成金	150,000
賛助会費	05年度分 @ 10,000*	1	10,000	事務備品費	備品・封筒作成・資料代	40,845
	06年度分 @ 10,000*	6	60,000	通信費	電話代・郵送料他	61,260
大会参加費	@ 2,000*	94	188,000	助成金	支部フェスティバル助成	300,000
大会懇親会費	@ 4,000*	41	164,000	会議費	理事会開催遠隔地旅費補助他	96,618
書籍売上	紀要	45	49,500	国際交流費	STEM 他運営費用	90,000
	著作権ハンドブック	22	16,000	雑費	振込手数料他	7,035
郵送料収入			5,070			
雑収入	預金利息		39			
				小計		1,447,488
					中日信用金庫	511,342
					郵便振替口座	3,311
					小口現金	48,260
				翌年繰越金		562,913
合計			2,010,401	合計		2,010,401

映画英語教育学会 2007年 第13回大会収支報告書

2007年5月19日
於：琉球大学

収入の部				支出の部		
大会参加費	@2,000*	68	136,000	大会関係費	大会案内・プログラム作成	63,700
大会懇親会費	@4,000*	30	120,000		講演料	30,000
大会懇親会費	@2,000*(STEM分)	20	40,000		運営費用	91,075
					懇親会	171,500
小計			296,000		その他	34,174
一般会計より			94,449			
合計			390,449	合計		390,449

◆ 学会誌「映画英語教育研究」第13号原稿募集 ◆

以下の要領で「紀要13号」の原稿を募集いたします。英語教育の中でも、特に映画などの映像資料を使ったリサーチに基づく「研究論文」、あるいはそうした現場での「教育実践報告」を対象とします。大学のみならず、中学校、高等学校等の現場においてユニークな実践やリサーチをされておられる方は、どうぞ奮ってご投稿下さい。

紀要編集委員会

【投 稿 規 定】

「研究論文」もしくは「教育実践報告」として応募して下さい。採用基準は以下のとおりです。

「研究論文」

1. テーマ・内容が有意義か
2. 論旨に一貫性があるか
3. オリジナリティが認められるか
4. 映画英語教育という視点に立っているか
5. 構成が適切か
6. 先行研究を充分踏まえているか
7. 論証が充分か

「教育実践報告」

1. テーマ・内容が有意義か
2. 論旨に一貫性があるか
3. オリジナリティが認められるか
4. 映画英語教育という視点に立っているか
5. 構成が適切か
6. 教育方法の記述が具体的かつ適切か

注意：「研究論文」とは異なり、「教育実践報告」は、映画を使った独創的な授業方法や教材開発についての報告・紹介等とし、必ずしも実証的・統計的・理論的な検証を要求しないものとします。

【書 式】 原稿はMS-Wordにより作成し、使用する書体は、和文の場合「明朝体」、英文の場合「Times New Roman」で、文字サイズは10.5ポイントとします。

用紙のサイズはA4版とし、上下左右25mmの余白を取り、1頁の行数を30行として13頁以内とします。これには注や文献書誌、写真、図表等も含まれます。

映画のシーンを写真として利用する場合には、執筆者本人が全責任を負うものとし、著作権所有者と交渉し、正式な掲載許可を得たうえで行って下さい。

写真は、そのまま版下に見える良質の状態のものをWord文書に貼り付けて下さい。

注は原稿末尾にまとめて下さい。引用文が英語以外の外国語の場合には英訳または和訳を付けて下さい。引用文が英語の場合は不要です。

外国の人名、地名等の固有名詞、及び書名などは、初出箇所では原綴を使用して下さい。

その他の書式の詳細については、Publication Manual of the American Psychological Association (APA)の最新版を参照して下さい。医学書院から『APA論文作成マニュアル』として日本語訳も発行されています。

【要 旨】 要旨を200語程度の英文にまとめて添付して下さい。書式は上記と同様とします。本文が英文である場合も規定通り英文で要旨をつけて下さい。

【提出方法】 応募原稿は、添付ファイルとして学会事務局 (office@atem.org) まで電子メールで送信して下さい。送信後3日 (土日祝日を除く) を過ぎても、学会

事務局から受領確認のメールがない場合は、送信・受信トラブルが考えられますので、学会事務局へ電子メールまたは電話にて確認をとって下さい。

【締め切り】 9月30日必着。

【提出先】 学会事務局。

【諸 注 意】 研究論文、教育実践報告は、応募時点で未発表であり、他所で掲載審査中でないものに限りです。

ワープロ独自のファイル形式、及びFAXによる応募は一切受け付けません。また、応募原稿はお返ししませんので、コピーは必ず執筆者が保管しておいて下さい。

【審 査】 応募された原稿は、紀要編集委員会の審査を経て、掲載の可否が決定されます。ただし、必要に応じて、原稿に一部修正、応募区分の変更 (研究論文から教育実践報告へ) を求めることがあります。

【略 歴】 応募原稿に、略歴を1部添付して下さい。

【初校の校正】 初校の校正は、執筆者にお願いしますが、誤植の訂正のみに限らせていただきます。内容に関する加筆訂正はご遠慮願います。

【抜き刷り】 執筆者用にお送りする抜き刷りは論文1件につき10部とさせていただきます。

【著作権】 学会誌に掲載された論文、報告等の著作権は学会に帰属することになります。

==== 役員及び委員紹介 ====

名誉会長

鈴木 博 (東京大学名誉教授)

会長

磐崎 弘貞 (筑波大学)

副会長

佐藤 弘明 (専修大学)
高瀬 文広 (福岡医療短期大学)
藤枝 善之 (京都外国語大学・短期大学)

理事

秋好 礼子 (福岡大学)
岡崎 弘信 (創価大学)
角山 照彦 (広島国際大学)
窪田 守弘 (愛知淑徳大学)
W.クリンガー (滋賀県立大学)
瀧口 優 (白梅学園短期大学)
塚越 博史 (北海道医療大学)
塚田三千代 (元専修大学)
中島 千春 (福岡女学院大学)
新田 晴彦 (専修大学)
日野 克美 (宮城大学)
真下 富雄 (広真アド)

研究委員会

磐崎 弘貞 (筑波大学)
佐藤 弘明 (専修大学)

兼本 円 (琉球大学)

紀要編集委員会

秋好 礼子 (福岡大学)
角山 照彦 (広島国際大学)

大会運営委員会

窪田 守弘 (愛知淑徳大学)
佐藤 弘明 (専修大学)
中島 千春 (福岡女学院大学)
藤枝 善之 (京都外国語大学・短期大学)

賛助会員交流委員会

高橋ひとみ (広真アド)

著作権問題専門委員会

瀧口 優 (白梅学園短期大学)
塚越 博史 (北海道医療大学)
日野 克美 (宮城大学)
藤枝 善之 (京都外国語大学・短期大学)

朴 真里子 (近畿大学)

データベース作成委員会

岡崎 弘信 (創価大学)
W.クリンガー (滋賀県立大学)
塚田三千代 (元専修大学)
新田 晴彦 (専修大学)

大月 敦子 (信州大学)
國吉 初美 (千葉工業大学)
東海林康彦 (明治大学)
チェンバレン暁子 (聖学院大学)

国際交流委員会

秋好 礼子 (福岡大学)
窪田 守弘 (愛知淑徳大学)
高瀬 文広 (福岡医療短期大学)

倉田 誠 (京都外国語大学)
鶴田知嘉香 (西南女学院大学)

会計監査

泉 日出人 (京都府庁)
菊池 俊一 (名古屋外国語大学)

事務局長

真下 富雄 (広真アド)

会計

盛 みえ子 (広真アド)

==== 原稿募集 ====

* ニューズレターでは、会員の皆様からの投稿記事をお待ちしております。

- ・会員活動の情報
- ・映画ビデオ紹介 (映画の中の名セリフ、使える表現など)
- ・本や文献の紹介 etc...

情報をお寄せ下さい。記事は学会事務局まで。

===== 入 会 案 内 =====

1. 本学会には学会の主旨、目的、会則に賛同する人及び会社・団体は誰でも入会できます。
2. 下記の入会申し込み用紙に記入の上、事務局までFAX または郵送して下さい。E-mail でも結構です。
3. なお、賛助会員として入会ご希望の方は、事務局までご連絡下さい。

4. 送付先： 映画英語教育学会事務局

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-3-12 アルク高田馬場4F (株) 広真アド内
TEL：03-3365-0182 FAX：03-3360-6364 E-mail：office@atem.org

切りとり線

映画英語教育学会 入会申し込み用紙 (FAX番号：03-3360-6364)

私は「映画英語教育学会」の会則を承諾し、入会を申し込みます。

年 月 日

	ふりがな 氏 名			
自 宅	住 所	〒		
	電 話		FAX	
	E-mail			
勤 務 先	学校名 会社名		学部名 部署名	
	住 所	〒		
	電 話		FAX	

会員名簿には、各学会員からの一言を併記することになっています。これは、会員相互の交流を深め、連絡を取り合い、研究会などにご利用して頂くためのものです。皆様の専門分野や研究内容などをご記入下さい。制限字数は、全角40文字(半角80文字)です。英語、数字は半角とみなします。

(会員名簿用)	一 言	(制限字数：全角40文字)

郵送物の送付先について、いずれかに印を付けて下さい。

郵送物送付	<input type="checkbox"/> 自宅優先	<input type="checkbox"/> 勤務先優先
-------	-------------------------------	--------------------------------